

踏まれないから死んでもいとけれどせめてもう五六六年はといつても言はれますよ。

末の子ほど可愛い。

垣の外を通る田五平爺に、此様に毎日雨では困るね、つて言葉を掛けましたら、お前様馬鹿なことはつしやるな澤山ふらねえて稻が植え付かるべいかよ、つてとなられました。之には一言もない。

○音

岩城服部貞子

勇ましきはラツバの音、お可笑しきは飴賣りの太鼓の音、悲しきは夜半の汽笛、憎らしきは高く鼻をかむ音、怒めしきは日曜の雨の音、そして一番嬉しきは、ドサリ！と小包を置く音！。

追加、床しいのは襖にさはる衣の音、いやなのは鋸の目を立てる音。

前橋穂積まさき子

私は此家に嫁ぎましてから晝は色々用事をなし、夜に入りて、日々の小遣をつけ、明日の事を、豫め定め、それから姑母さんのお肩を揉み、すむと四疊半の夫の夫は優しいのよ。

スキートホーム。

伊勢さかえ

私は一番末子です母は五十の坂を二つも三つも越えてゐるんです母がどこか少し病ひともうあれも牛や馬に

○四季

備後平田加津子

○雨

埼玉名なし草

垣の外を通る田五平爺に、此様に毎日雨では困るね、

やるな澤山ふらねえて稻が植え付かるべいかよ、つて

となられました。

之には一言もない。

○音

岩城服部貞子

勇ましきはラツバの音、お可笑しきは飴賣りの太鼓の音、悲しきは夜半の汽笛、憎らしきは高く鼻をかむ音、怒めしきは日曜の雨の音、そして一番嬉しきは、ドサリ！と小包を置く音！。

追加、床しいのは襖にさはる衣の音、いやなのは鋸の目を立てる音。

前橋穂積まさき子

私は此家に嫁ぎましてから晝は色々用事をなし、夜に入りて、日々の小遣をつけ、明日の事を、豫め定め、それから姑母さんのお肩を揉み、すむと四疊半の夫の夫は優しいのよ。

スキートホーム。

伊勢さかえ

私は一番末子です母は五十の坂を二つも三つも越えてゐるんです母がどこか少し病ひともうあれも牛や馬に

○母の愛情

埼玉名なし草

垣の外を通る田五平爺に、此様に毎日雨では困るね、

やるな澤山ふらねえて稻が植え付かるべいかよ、つて

となられました。

之には一言もない。

○音

岩城服部貞子

勇ましきはラツバの音、お可笑しきは飴賣りの太鼓の音、悲しきは夜半の汽笛、憎らしきは高く鼻をかむ音、怒めしきは日曜の雨の音、そして一番嬉しきは、ドサリ！と小包を置く音！。

追加、床しいのは襖にさはる衣の音、いやなのは鋸の目を立てる音。

前橋穂積まさき子

私は此家に嫁ぎましてから晝は色々用事をなし、夜に入りて、日々の小遣をつけ、明日の事を、豫め定め、それから姑母さんのお肩を揉み、すむと四疊半の夫の夫は優しいのよ。

スキートホーム。

伊勢さかえ

私は一番末子です母は五十の坂を二つも三つも越えてゐるんです母がどこか少し病ひともうあれも牛や馬に

○早く歸りたい

埼玉名なし草

垣の外を通る田五平爺に、此様に毎日雨では困るね、

やるな澤山ふらねえて稻が植え付かるべいかよ、つて

となられました。

之には一言もない。

○丁字と水仙

下谷入江かつ子

春の始より芳薫する丁字の花と、春雨うちけぶる頃咲き出づる水仙との白きは品よくて愛らしく、良家の理想高き少女にも似たれど、丁字の紅と水仙の黄とは何れも賤しげにて下町の理想低き娘にもたぐへつべし。

下谷入江かつ子

私は此家に嫁ぎましてから晝は色々用事をなし、夜に入りて、日々の小遣をつけ、明日の事を、豫め定め、それから姑母さんのお肩を揉み、すむと四疊半の夫の夫は優しいのよ。

スキートホーム。

伊勢さかえ

私は一番末子です母は五十の坂を二つも三つも越えてゐるんです母がどこか少し病ひともうあれも牛や馬に

○早く歸りたい

埼玉名なし草

垣の外を通る田五平爺に、此様に毎日雨では困るね、

やるな澤山ふらねえて稻が植え付かるべいかよ、つて

となられました。

之には一言もない。

○丁字と水仙

下谷入江かつ子

春の始より芳薫する丁字の花と、春雨うちけぶる頃咲き出づる水仙との白きは品よくて愛らしく、良家の理想高き少女にも似たれど、丁字の紅と水仙の黄とは何れも賤しげにて下町の理想低き娘にもたぐへつべし。

下谷入江かつ子

私は此家に嫁ぎましてから晝は色々用事をなし、夜に入りて、日々の小遣をつけ、明日の事を、豫め定め、それから姑母さんのお肩を揉み、すむと四疊半の夫の夫は優しいのよ。

スキートホーム。

伊勢さかえ

私は一番末子です母は五十の坂を二つも三つも越えてゐるんです母がどこか少し病ひともうあれも牛や馬に